

「トルコ越境攻撃実施、カタールで中東初の W 杯開催」

中東フラッシュレポート（2022 年 11 月後半号）

2022 年 12 月 5 日
国際部 シニアアナリスト
広瀬 真司

1. トルコ：シリア北部・イラク北部のクルド人武装勢力に対して越境攻撃を実施

11 月 13 日にイスタンブールで発生したテロ事件（トルコ政府はクルディスタン労働者党「PKK」による犯行と断定）に対する報復として、11 月 20 日、トルコ軍はシリア北部およびイラク北部のクルド人武装勢力（PKK やその関連組織とされるクルド人民防衛隊「YPG」など）の拠点 89 か所に対する空爆を実施した。トルコは、PKK や YPG がシリアやイラクの北部地域からトルコに攻撃を行っているとして、2016 年以降同地域への越境軍事作戦を繰り返している。11 月 21 日にはシリア領内からの報復攻撃があり、シリアとの国境沿いのトルコ側の町にロケット弾 5 発が着弾し、子供を含む 3 人が死亡（10 人負傷）。トルコのソイル内相はさらなる報復攻撃を示唆し、エルドアン大統領は地上部隊の投入も検討していると発言。

しかし、トルコによるシリアへの地上部隊の投入に関してはロシアと米国が反対している。ロシアはシリアのアサド政権を支持しており、トルコによるシリアの主権侵害には反対の立場。米国は、過激派組織イスラム国「IS」の掃討作戦で米軍が YPG などシリア国内のクルド人武装勢力と共闘しており、同地には駐留米兵もいるため、トルコによる攻撃に反対している。YPG を巡っては、これまでも同組織をテロ組織に指定し敵対視するトルコと、対 IS 戦の協力者として軍事・財政的に支援してきた欧米との間でたびたび火種となっている。

2. カタール：中東初のサッカーワールドカップ開催

中東地域で初開催となる 2022 サッカーワールドカップ（W 杯）カタール大会が 11 月 20 日から開催されているが（決勝戦は 12 月 18 日）、欧州を中心に開催国カタールに対して人権問題への批判の声が高まり、英 BBC 放送は開会式の放送を取りやめた。大きく 2 つの批判があり、1 つは、今大会のスタジアム建設のために多くの出稼ぎ労働者が命を失ったという批判。英ガーディアン紙は、大会開催決定以降に 6,500 人の労働者が死亡したと報じた（公式発表では 40 人）。もう 1 つは、カタールが LGBT（性的少数者）の人権を認めていないという批判であり、大会開催直前に大会関係者が同性愛を「精神的欠陥」と表現したことで批判が高まった。カタール政府は差別することなく全てのファンを歓迎すると発表しており、国際サッカー連盟（FIFA）会長は「（政治ではなく）サッカーに集中してほしい」と語っている。

3. カタール：LNG 長期売買契約締結を立て続けに発表

11 月 21 日、カタール国営エネルギー企業であるカタールエナジー（QE）は、中国の国有企業シノバックと液化天然ガス（LNG）の契約で過去最長となる 27 年間の LNG 売買契約を締結した。カタールは中国に対して、年間 400 万トンの LNG を 27 年間にわたって供給する。両社は 2021 年 3 月にも、10 年間の LNG 売買契約（年間 200 万トン）を交わしている。また 11 月 29 日には、QE とコノコフィリップスが契約を締結し、2026 年から 15 年間カタールからドイツに LNG を年間 200 万トン供給することで合意した（初のドイツ向け LNG 長期契約）。ドイツは 2045 年までにカーボンニュートラルの達成を目指しているため、これまで長期契約に難色を示してきたが、ロシアのウクライナ侵略後にロシア産天然ガスの輸入が停止してしまったため、代替調達が必要になった。

4. サウジアラビア：ムハンマド皇太子、訪日予定を直前でキャンセル

サウジアラビアのムハンマド皇太子による 3 年ぶりの訪日予定（11 月 19～21 日）が、直前でキャンセルされた。同皇太子は 11 月 14 日にサウジアラビアを出発し、インドネシア（G20 サミット参加）、韓国、タイ（APEC サミット参加）を訪問し、予定ではその後訪日のはずだったが、11 月 19 日にタイからカタールへ飛び、翌 20 日に開催された W 杯開会式に出席した。同皇太子とカタールのタミム首長との良好な関係に加え、サウジアラビアはギリシャ、エジプトと共に 2030 年の W 杯招致を目指しているため（初の 3 大陸共同開催）、訪日より W 杯の開会式出席を優先した可能性がある。



中東フラッシュレポート（2022 年 11 月後半号）

5. イラク情勢

➤ 内政・外交

- 11 月 17 日、スーダーニ首相は、2003 年以降の歴代大統領、首相、国会議長などに対する国からの警備提供を停止することを決定した。また歴代大統領などのプライベートジェットのレンタル費用や医療費用など様々な金銭面での支援や、議員や省庁高官、大使などに対する車の提供なども停止する。同様に費用削減の一環として、在留イラク人がいない 20 か国のイラク大使館の閉鎖も決定した。
- 11 月 21 日、スーダーニ首相は就任後初の外国訪問でヨルダンを訪問し、アブドゥッラー 2 世国王と会談。両国は、国境地帯における工業地区の設置と 2023 年半ばまでの送電線接続に合意している。同首相は、11 月 23 日にはクウェートを訪問。さらに、11 月 29～30 日には外相や石油相と共にイランを訪問し、ハメネイ最高指導者やライシ大統領と二国間関係や地域の安定、さらなる経済協力の可能性などについて話し合った。
- イラク税務当局の口座から 25 億ドルが引き出された公金横領事件に関し、既に逮捕された主犯格の実業家の資産没収などにより 1.25 億ドルを回収したとスーダーニ首相が発表。11 月 30 日には、カーゼミー前首相の財務顧問も汚職容疑で逮捕された。イラクは汚職で悪名高く、過去 20 年の間に国庫から 3,000 億ドル以上が消失したとの報告もある。国際 NGO トランスパレンシー・インターナショナルによる「腐敗認識指数」でも、イラクは 180 か国中 157 位にランク付けされている（ランクが低いほど汚職がひどい）。

➤ 治安・その他

- 11 月 17 日、イラク北部クルド人自治区のスレイマニヤ市の住宅地で、ガスボンベの爆発で隣接する 3 棟の建物が崩壊し 15 人が死亡、16 人が負傷した。イラクでは、ずさんな安全基準に起因する同様の事故の発生が多くみられる。
- 11 月 21 日、イランの革命防衛隊（IRGC）は、クルド人自治区の反イラン武装勢力の拠点をドローンで攻撃。イランは、同勢力がイラン国内のデモを扇動しているとして、同地への攻撃を繰り返し行っている。
- 11 月 30 日、過激派組織 IS の報道官は、リーダーのアブルハサン・アルハーシミー・アルクラシーが戦闘中に死亡し、アブルフセイン・アルフセイニー・アルクラシーが新たなリーダーになったことを発表した。米中央軍によると、アブルハサンは 10 月半ばにシリア南部で反政府武装勢力「自由シリア軍」（FSA）との戦闘中に死亡（隠れ家を包囲され自爆死）したとのこと。

➤ 石油・経済

- 11 月度原油輸出速報：輸出額 82.31 億ドル。輸出量 日量 332.9 万バレル（bpd）。平均単価 1 バレル当たり 82.42 ドル。
- 11 月 30 日、イランのオウジ石油相は、イラクが支払いを遅延していたガス代金 26 億ユーロを完済したと発表した。
- イラク石油省高官は、2028 年までにイラクの産油量を 500～550 万 bpd まで増産すると発言（現在の産油量は約 460 万 bpd）。2022 年のこれまでのイラク原油販売価格は、平均で 1 バレル当たり 97 ドル。
- 2022 年のイラクのエネルギーセクター全契約のうち、87%（38.72 億ドル）を中国の業者が落札。なお、2018 年から 2022 年現在までの 5 年間では、59%（211.89 億ドル）が中国業者で、次いで日本の業者が 11%（37.75 億ドル）。イラクのエネルギーセクターにおいても、中国の存在感が年々高まっている。

6. リビア情勢

- 11 月 16 日、チュニジア政府使節団がトリポリを訪問し、貿易や運輸に関する複数の合意書に署名した。

本資料は、信頼できるとされる情報ソースから入手した情報・データに基づき作成していますが、当社はその正確性、完全性、信頼性等を保証するものではありません。本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社及び住友商事グループの統一した見解を示すものではありません。本資料のご利用により、直接的あるいは間接的な不利益・損害が発生したとしても、当社及び住友商事グループは一切責任を負いません。本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。



中東フラッシュレポート（2022 年 11 月後半号）

- 11 月 17 日、ギリシャのデンディアス外相の乗る飛行機がトリポリ国際空港に着陸したが、外相は降機せずにそのまま飛び立った。同外相は「メンフィー大統領評議会議長にしか会わない」という条件を付けてトリポリを訪問したが、国民統一政府（GNU）のマンガース外相が空港に来ていたため、デンディアス外相は降機を拒否しそのまま飛び立ったとのこと。同外相はその後同国東部のベンガジを訪問し、サーレハ代表議会（HoR）議長やハフタル・リビア国民軍（LNA）司令官などと会って帰国。リビア外務省は駐ギリシャ大使を帰国させ、またギリシャの駐リビア代理大使を呼び出して正式に抗議した。
- 11 月 22 日、HoR はリビア東部の中央銀行のヒブリ副総裁を汚職疑惑で解任した（ベンガジ、デルナ両都市の再建委員会の議長職からも解任）。同氏は汚職疑惑を「真実ではない」と否定し、「強い行動」を起こす準備をしていると語った。東部の中央銀行も、HoR に対して同氏解任の詳細説明を求めており、詳細が分かるまで営業を停止すると発表している。
- 10 月のリビアの原油生産量は 118 万 bpd で、アフリカで 1 位となった（2 位は 105 万 bpd のアンゴラ、3 位は 104 万 bpd のアルジェリア）。9 月の生産量（116 万 bpd）より微増。

以上

OPECバスケット価格推移（過去1年・過去1か月）

